

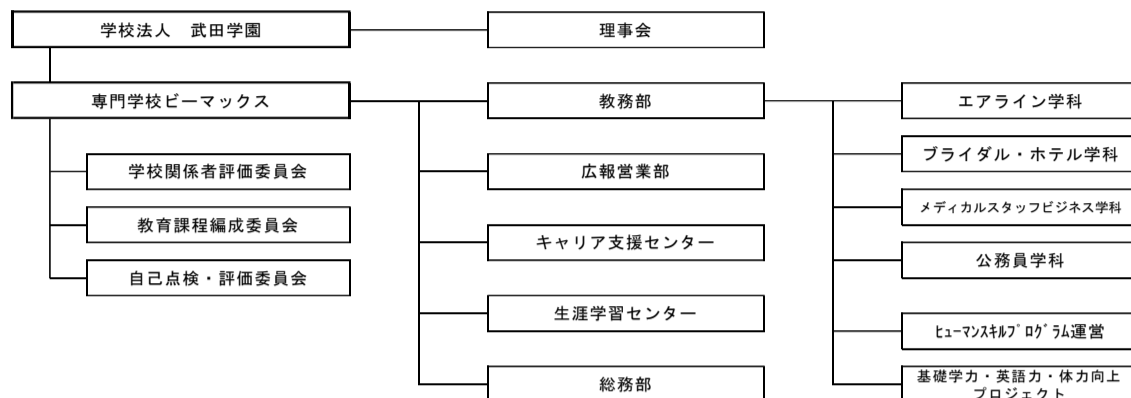
1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善工夫等)に反映、職場や社会で必要とされる人材を育成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記



毎年、次期及び中長期のカリキュラム作成は、秋～冬にかけて実施するため、教育課程編成委員会も、その前後に1回ずつ開催する(計2回)。秋、学科教員間で今期実行中のカリキュラムにおける良い点や改善すべき点を洗い出し、秋の委員会においてそれらを検討する。外部委員の方からの最新の情報や意見交換の内容に基づいて、次年度及び中長期のカリキュラムを、学科教員+教務部全体で検討し作成。春の委員会において、今期の最終報告を交えながら、次期及び中長期のカリキュラムの内容を共有し、ご意見を賜る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
石原 和則	総社商工会議所 専務理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	①
林 正明	両備ホールディングス(株) 両備スカイカンパニー 旅客第一部 チーフマネージャー	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	③
林 健一	ANAクラウンプラザホテル岡山 管理部長・人材開発部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	③
大谷 太陽	社会医療法人 社団十全会心臓病センター榊原病院 財務担当所属長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	③
石井 隆晶	防衛省自衛隊岡山地方協力本部 岡山募集案内所 所長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	③
横田 悟	専門学校ビーマックス 校長代理	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	
平岡 成一	専門学校ビーマックス 教務部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	
坂上 弘次	専門学校ビーマックス 統括マネージャー	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	
武田 知子	専門学校ビーマックス 理事・総務	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(秋、春)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年12月13日 14:00～16:00

第2回 令和4年3月23日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

林(正)委員より、貴校の大事にしている人間性(自主性、積極性、献身性)は、学校や友人同士の限られた関係性の中だけではなく、上司や先輩、組織というでも発揮できるようにならないと指摘を受ける。林(健)委員からも、年々受け身の社員が増えていて、頭を抱えている。石原委員からは、「個」を優先する学校教育の弊害で、企業が本当に求めている、我慢が出来る、周りとしつかり話が出る、人のせいにならないなど、人として基本的なことを理解している人材からはどんどん遠くなっていくのではないかという話があった。エアライン学科としては、「JALフィロソフィ」について考える時間を設けているが、学校全体としても、喫緊の課題だと認識し、令和4年度より「新入生研修」のやり方や伝え方を大幅に見直した。また、企業、NPO及び地域団体等と協働する新しい「ヒューマンスキルプログラム」や、キャリア支援センターによる企業とのより積極的なコラボレーション授業などで、社会や社会で働く人々とより密に関わるプログラムを導入しているが、効果は限定的であろう。さらなる試行錯誤が必要がある。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

1年次、岡山空港での長期インターンシップ(実習)に向けて、修得しておくべき知識・業務を岡山空港の現役職員より学びながら、航空業界で働く上で欠かせないホスピタリティや接客マナーを、2年間通して航空業界のキャリア経験者に学ぶ。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学科の担当教員と企業から派遣された講師が事前に打ち合わせを行い、講義や演習の内容、評価基準等について定める。進行中も、授業の進捗状況や学生の取り組む姿勢などを常に情報交換し、終了後は、事前に定めた評価基準に従い、講師が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
空港実務①	空港の中で、地上職員が担う旅客業務(カウンター業務、ロビーサービス業務、ゲート業務など)やグランドハンドリング業務について学び、時には実技を交えながら、インターンシップ(実習)で最低限必要な知識・技能を習得する。	両備ホールディングス株式会社
空港実務②	岡山空港で空港スタッフによる講義を受講。一部インターンシップを実施し、グランドスタッフの業務の一部を体験する。	両備ホールディングス株式会社
エアラインマインド I	航空業界で働く上で欠かせないホスピタリティや接客マナーを学ぶ。ホスピタリティの根底にあるのは、主体的に考え、自己の向上心を持ち、他者と良好な対人関係を築くことにある。挨拶・身だしなみ・態度・言葉遣いといった基本的なところから、他者から信頼を得て、社会の発展に貢献する価値を作り出すことができる思考またその力を培うことを目指す。	ホスピタリティ&マナー・ラボ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

職員の業務上の知識と技能を高め、あわせて職員の人格と見識を高め、協調性を養い、職務の質的・量的向上を図るために、教育訓練(教員研修)を行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「航空業界や航空各社の現状について」(連携企業等:一般社団法人CAネットワーク)

期間:令和3年10月26日(火) 対象:エアライン学科 坂上・中尾

内容:現時点での、国内線及び国際線の運航便数や需要について。搭乗客数が確保できない分、各社プラスαのサービスに力を入れており、CA発案によるユニークな企画も多い。現状を肯定的に受け入れ、その上でアイデアを出したり、他部署への異動や出向やスキルアップなどあらゆることに前向きに取り組んだりできるような、柔軟性のある人材がより必要とされている。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「PSAパーソナリティ診断を活用したコーチング研修 2021年度版」校長代理 横田 悟(PSAマスタープロファイラー)

期間:令和3年10月16日(土)、令和3年10月23日(土)、令和3年12月4日(土)、令和3年12月25日(土)

対象:専門学校ビーマックス 教職員

内容:PSAへの理解と活用方法について。情動の特性の理解。学生にPSAを動機づけする技法について、学生面談時の活用方法(ケーススタディ)、自己分析・面接指導時の活用方法、退学・離職防止に向けて危険な学生の事前察知と指導方法

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「国際社会における英語表現及びコミュニケーション能力の培い方、その指導方法について」広島入子附属岡山高校 池岡 隼光生

期間:令和4年5月11日(月) 対象:エアライン学科 工藤

内容:授業開始時に今日のGOALを提示して学生に意識付けを行ったのち、正しい発音を意識した指導とインプットの後は必ずアウトプットを徹底的に行うことで、コミュニケーションに必要なリスニング力とスピーキング力の育成を図っている。授業中、教員はほとんど説明はせず、学生に考えさせている。自分で考え、アウトプットすることで、学生に「自分にもできる」と実感させること、そして学びから得られる喜びと自信を与えることが大切だと考えている。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「魂を揺さぶる本気の教育とは」(連携企業等:株式会社アビリティトレーニング)

期間:令和4年12月実施予定 対象:専門学校ビーマックス 教職員

内容:学生の人生と向き合うために知っておきたい5つの法則。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、自己評価結果の客観性と透明性を高めるとともに、関連企業や団体、高校、卒業生、地域住民など、学校と密接に関係する方々の理解と、継続した連携協力体制を確保するため、「学校関係者評価委員会」を設置し、「学校関係者評価」を実施する。当該委員会の委員の助言や意見などの評価結果を、学校運営等の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

濱田委員によると、高齢化と人口減少の加速化で、若者(学生)の超売り手市場は変わらず、人取り合戦が起きている。高校生や保護者が寄り好みできてしまう一方で、現場ではキャリアや実績のある職人との世代間ギャップにより若者が続かないという問題は一向に解消されていないという。本校でも学生との接し方に苦慮しており、PSAに関する研修も、教員歴の長い人間こそ接し方を見直していく必要があるという意図もあって実施している。林(健)委員からは、若者(学生)やその保護者の仕事に対する考え方の違いにより、クレームが入った例が紹介された。また、通常業務に戻りつつある中で、忙しさに身体がついていけないという社員が新人を中心に受け入れられるという。エアライン学科の歴代の卒業生も、コロナを境に空港業務にとどまっているものと、別の業種に進んだものと分かれている。学科教員やキャリア支援センターの教員によって、企業や担当者の方針を理解しつつ、学生(卒業生)の志向を踏まえた声掛けをすることで、関係性構築に寄与したい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
宇野 元浩	税理士法人 エフ・エム・エス 代表社員税理士	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	②卒業生 ⑥専門家等評価委員
山脇 惇	岡山寿郵便局 局長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	④地域住民 ⑦専門家等評価委員
濱田 浩昭	岡山県立岡山工業高等学校 進路課長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年間)	⑤高校等評価委員
石原 和則	総社商工会議所 専務理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	⑦専門家等評価委員
林 健一	ANAクラウンプラザホテル岡山 管理部長・人材開発部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	①企業等評価委員
大谷 太陽	社会医療法人 社団十全会心臓病センター榊原病院 財務担当所属長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	①企業等評価委員 ②卒業生
石井 隆晶	防衛省自衛隊岡山地方協力本部 岡山募集案内所 所長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年間)	①企業等評価委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

<https://www.be-max.ac.jp/release/17655/>

令和4年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育目標や教育活動の計画、実績等について、学生や保護者には、入学前から定期的実施する三者面談の場において直接お伝えしている。また学内で自己点検評価を実施した後、学校関係者評価を実施し、それぞれの内容をホームページ上で公表。ホームページやパンフレットを通じて、本校の活動を、関連業界団体や地域住民、卒業生など幅広くご覧頂くことで、本校に対する理解を深めて頂き、教育内容のさらなる充実を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校紹介・理念、教育方針、ビーマックスの学び、沿革
(2)各学科等の教育	各学科紹介
(3)教職員	教員紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	インターンシップ、社会貢献活動、就職サポート、就職実績
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、部活動、学友会
(6)学生の生活支援	パーソナリティ診断に基づく面談・指導
(7)学生納付金・修学支援	学納金及び学納金の支援・免除制度
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

専門学校ビーマックス パンフレット、学生募集要項、ホームページ、リーフレット

<https://www.be-max.ac.jp/release/17655/>